第48回全国公民館研究集会 和歌山大会｜記念講演

地域の力を信じて、若者と歩む公民館の挑戦

応募ゼロから始まった、“卒業しない社会教育”

2026.11.18

野嶋 京登
浜松市役所 中央区まちづくり推進課 主任・社会教育士



若者たちがつくった、公民館の風景

2,500人

富ックオアトリート！2024｜3年目の来場者数

でも、若者ボランティアの始まりは・・・

応募者 0人

チラシを配っても、誰も来なかった。

社会教育とは、無縁だった

1 2 3 4

民間企業
営業職

浜松市役所
税務・企画

富塚協働センター

中央区まちづくり推進課
生涯学習担当

「社会教育」という言葉を、学生時代は聞いたことがなかった。

「人を集める」より、
「人が動きたくなる関係」をつくる
若者 × 公民館 × 地域づくり
学校 × 地域 ／ インクルーシブな学び



地方公務員アワード 2023



平成30年4月｜富塚へ

見えていた課題

公民館に、若者がいない

1　貸館中心のイメージ

2　来館者の高齢・固定化

3　若者との接点が見えない

最初の出会い

ロビーで勉強していたKくん

学校生活の話をする。
夏祭りで、もう一度一緒にやってみる？
と声をかける。

些細な声かけが、最初の一歩になった

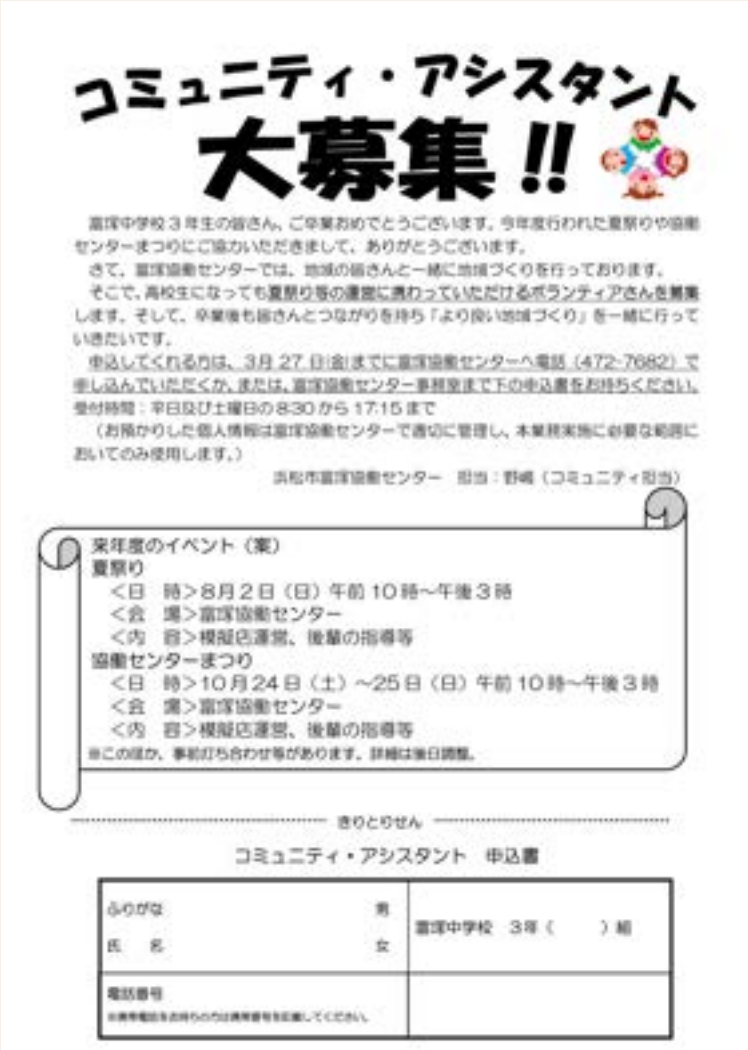


若者をあつめる前に、
顔を覚えて、
名前を呼んで、
その人を知る

日常の声かけが、最初の地域づくり

最初の失敗

チラシを配って、待った



コミュニティ・アシスタント
大募集!!

富塚中学校３年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今年度行われた夏祭りや協働センターまつりにご協力いただきまして、ありがとうございます。

さて、富塚協働センターでは、地域の皆さんと一緒に地域づくりを行っております。

そこで、高校生になっても夏祭り等の運営に携わっていただけるボランティアさんを募集します。そして、卒業後も皆さんとつながりを持ち「より良い地域づくり」を一緒に行っていきたいです。

申込してくれるりは、3月27日(金)までに富塚協働センターへ電話（472-7682）で申し込んでいただくか、または、富塚協働センター事務室まで下の申込書をお持ちください。

受付時間：平日及び土曜日の8:30から17:15まで

（お預かりした個人情報は富塚協働センターで適切に管理し、本業務実施に必要な範囲においてのみ使用します。）

浜松市富塚協働センター　担当：野崎（コミュニティ担当）

来年度のイベント（案）

夏祭り

<日　時>8月2日（日）午前10時～午後3時

<会　場>富塚協働センター

<内　容>模擬店運営、後片の指導等

協働センターまつり

<日　時>10月24日（土）～25日（日）午前10時～午後3時

<会　場>富塚協働センター

<内　容>模擬店運営、後片の指導等

※この他、事前打ち合わせ等があります。詳細は後日調整。

きりとりせん

コミュニティ・アシスタント　申込書

ふりがな 氏　名　男・女	富塚中学校　3年（　　）組
電話番号 ※携帯電話をお持ちの方は携帯番号を記載してください。	

応募 0人

広報では届かなかった。
だから、関係から始め直した。

「待つ」を、やめた

声をかける
関係から、始める





応募ゼロ

じゃあ、
会いに行こう

待っていても、出会えない人がいる

待つ → 会いに行く

電話をかけた
卒業式終了後、正門に顔を出した

4人が、最初の仲間になった。



Kくんと合わせて、最初の５人

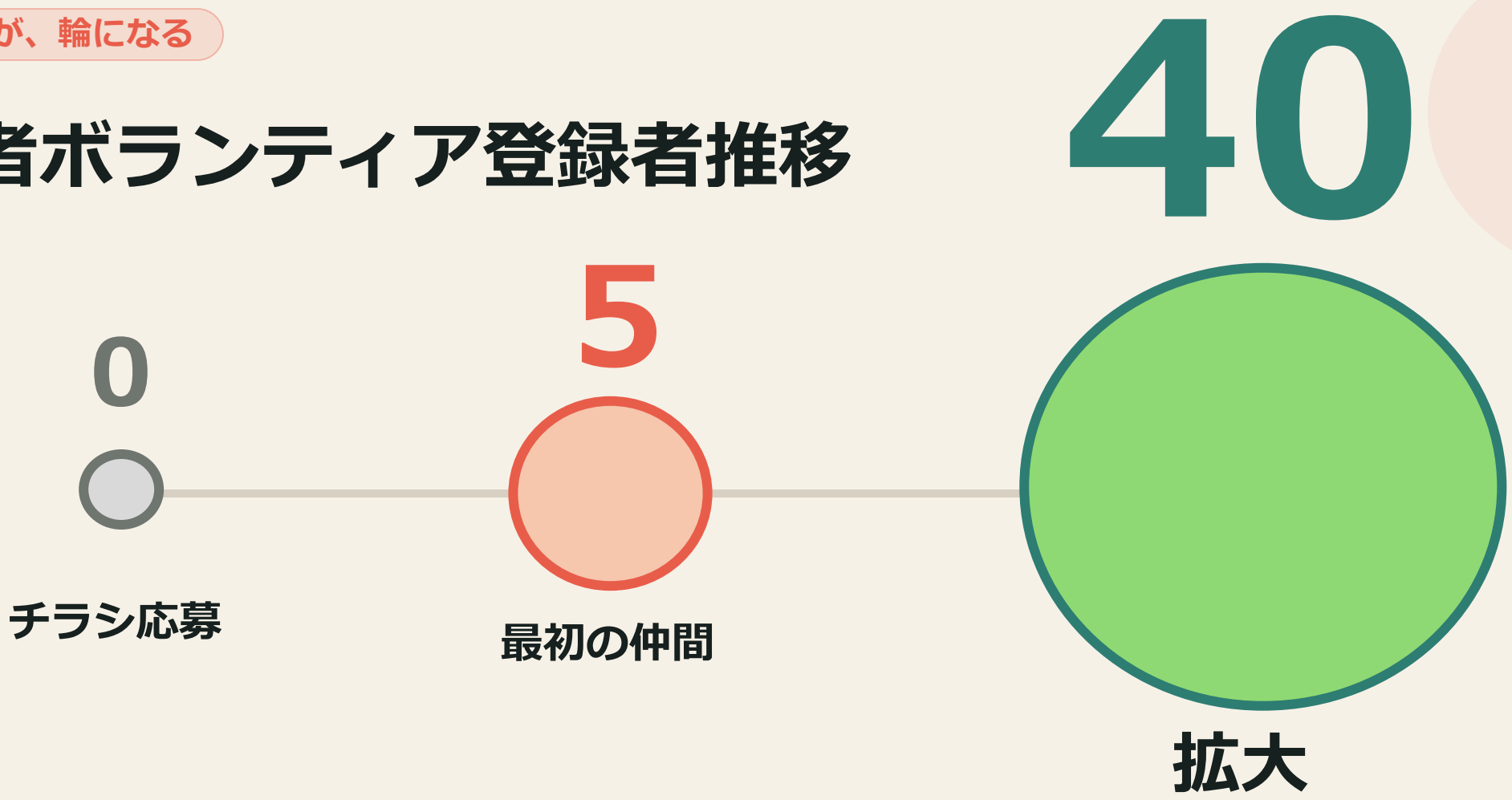
KEYWORD 1

ひとりから始める

5人は「少ない」のではなく、関係が生まれた5人

関係が、輪になる

若者ボランティア登録者推移



増えた理由は、若者のアイデアを一緒に形にしたこと

名前をつけると、
居場所になる

コミュニティ・アシスタント

通称｜コミアシ

地域づくりも、一人ではなく
たくさんの“アシスタント”と





質問

みなさんは勤務先のまちを、「自分のまち」だと思えているだろうか？

働く場所から、関わるまちへ



シビックプライド

「このまちに、自分も関わっている」

その実感が、まちへの誇りになる

好きになることだけじゃない
関わることで、まちは「ジブンゴト」になる

KEYWORD 2

やりたいは、地域資源

趣味・違和感・気づきは、企画の種になる。

「手伝う人」から「つくる人」へ

役割が変わる

手伝う人

決まった仕事をする
当日の人手になる
大人の企画を支える



つくる人

自分たちで気づく
タイトルも内容も考える
地域の誰かへ届ける



最初の自主企画

アオハル音楽祭

自分の趣味をひらく
↓
次の誰かの場をつくる



役割を渡すと、
表情が変わる

任せるのは、作業ではない。

考える余白と、決める権限を渡す。



「やってみたい」を、本気で形にする

小さな挑戦が、地域での自信になる。

富ックオアトリート

地域の不足を企画へ

「子ども向けハロウィンがないね」



タイトルも、ロゴも、内容も。
若者と一緒に考えた。

ハロウィンも、若者の発想から始まった

いちから作り上げるイベントは仲間の結束を強めた





富ックオアトリートの来場者数



大切なのは、来場者数より、若者の『次もやりたい』が増えたこと



2,500人

でも、
そこじゃなかった

残ったのは、人数よりも「関係」だった

KEYWORD 3

任せる勇気

口を出しすぎず、放りっぱなしにせず、約束は伝える。

口を出しすぎない

放りっぱなしにしない

約束は伝える

自由の横に、礼儀を置く

部活や塾を最優先でいい

選べる自由

連絡だけはきちんとしよう

社会の約束

自主性を守るために、境界線を一緒につくる

若者が動くと、
大人が後ろから支える

イベント
ごみ回収

駐車場整理

食事支援

若者の頑張る姿は、
地域の大人の役割も生み出した





余韻が学びになる

豚汁とおにぎりが、次の関係をつくる

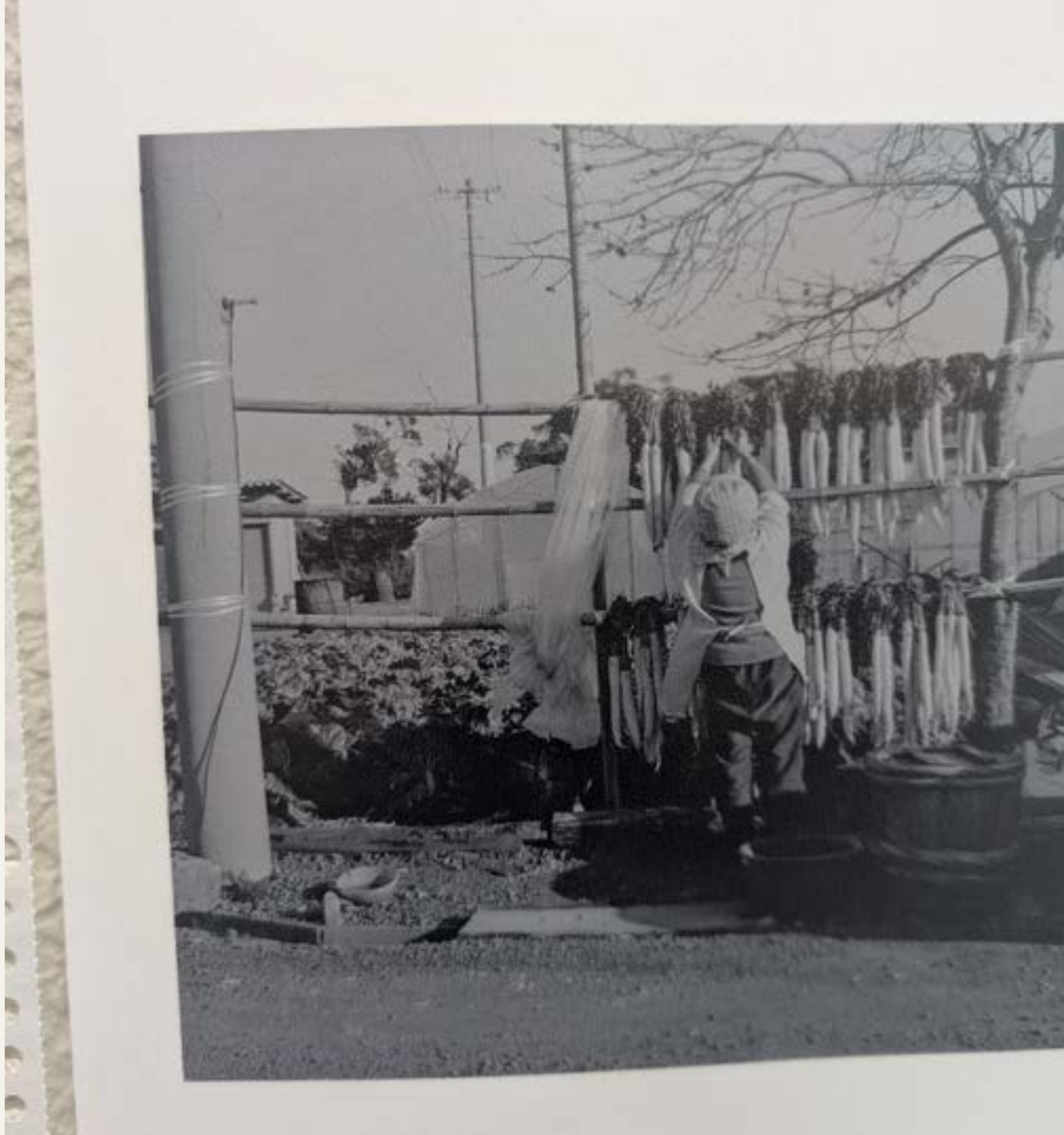
反省会をしながら語り合う。
終わった後の“楽しい時間”も、
社会教育の本番。

「知らない」から
地域を調べる

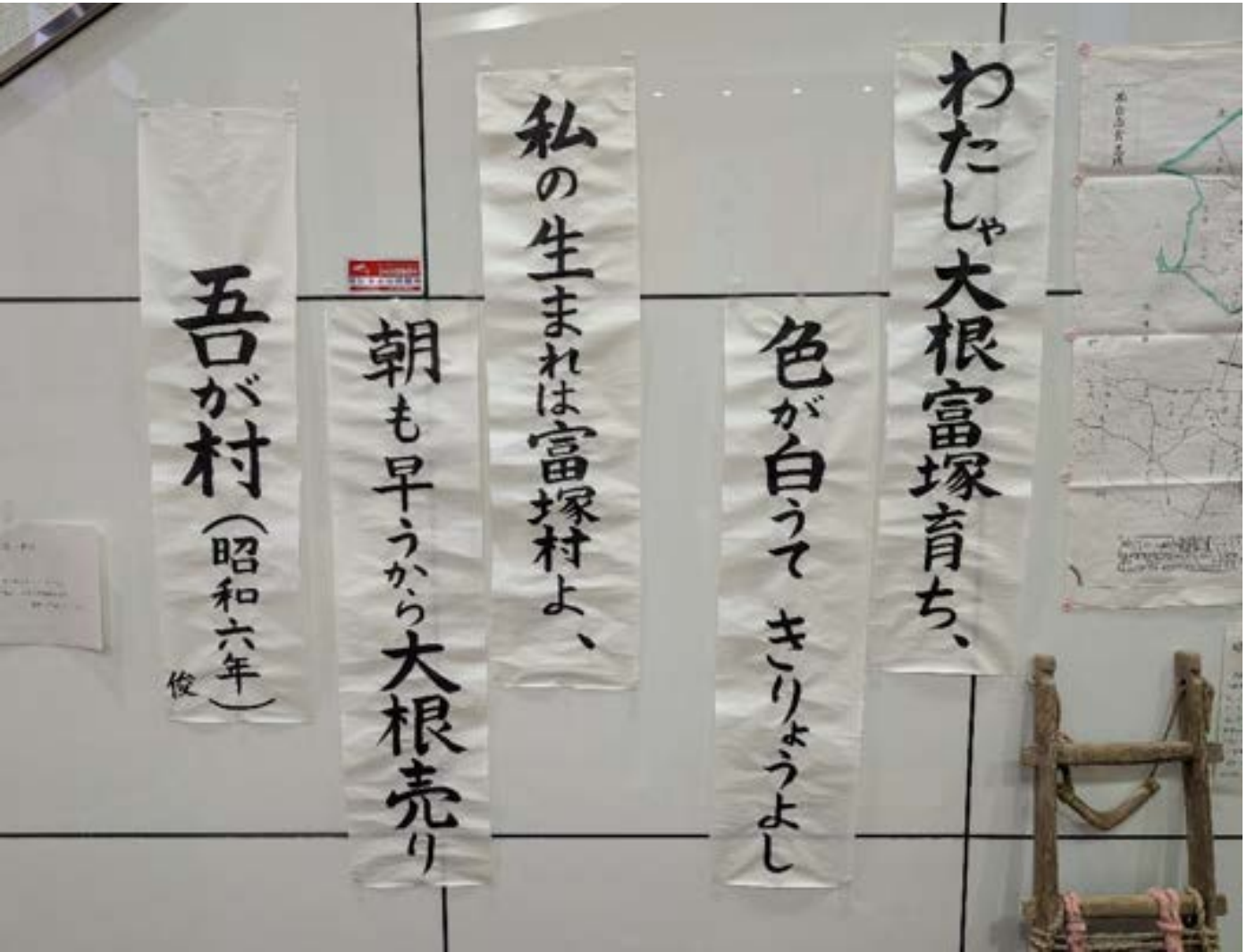
写真を探す

人に聞く

まちを歩く



当時の風景を描く
吾が村の語録を書く











学びが活動へ広がり、愛着が生まれる

愛着は、一緒につくる体験から育つ

KEYWORD 4

若者が育つと、大人も育つ

支援は一方向ではない。世代の間に循環が生まれる。



何を成果と呼ぶか

成果は、参加者数だけではない

若者

価値観や人生が変わった

自信・仲間・
地域への愛着

大人

若者に元気をもらった

役割・対話・
世代間の信頼

地域

自分たちのまちを誇れる

シビックプライド・
次の挑戦

アウトプットではなく、アウトカムを見る

5年目｜思いがけないことが起きた

「異動させないで」
地域の方々による署名

あとから聞いた話では7日間で

300人超

仕事の成果とは別に、
人との関係が残っていた。

そして、人事異動

2025.4

富塚協働センター
→ 中央区まちづくり推進課





活動は、止まるのか？

そして、異動の日

100人以上が、
見送りに来てくれた

いちばん嬉しかったのは、
みんなが会いに来てくれたこと

手紙、贈り物、たくさんの「ありがとう」





関係が場所を越える

公民館の外へ

若者ボランティアサークル Funnily
× 浜松まちなか｜プレハロ★フェス2025

「富塚の外でもイベントをしてみたい！」

若者ボランティアサークル Funnily
× 浜松まちなか｜まちなかイースタージャック

関係が場所を越える

公民館の外へ



「浜松は卵の隠れた名産地！」

KEYWORD 5

離れても、帰ってきたくなる

場所ではなく、関係が帰る場所になる

KEYWORD 6

関係が成果

事業が終わっても、人と人のあいだに次の行動が残る

ボランティア → サークル

公民館 → まちなか

事業 → 自走する関係

若者が考えるまちプロジェクト｜チャレンジ応援ディレクター

大人の役割を、
正解を出す人から、応援する人へ







やりたいことを、
実現できる形へ

佐鳴台小学校ビオトープ再生

若者が、地域と次の世代をつなぐ



40年以上
眠っていた池



愛知大学「はまラ部」

放流を支える若者たち



約90名

子ども・保護者・地域が集い、
池に笑顔と会話が戻った。



現場から考える

地域活動は、泥臭い

地域の「地」は、僕にとって地面の「地」

人に会う。声を聴く。一緒に手を動かす。

まちへの誇りは、
まちに関わった記憶から
生まれる





仕事も、地域も、出会った人も
全部が、自分とまちとの関係になっていく



行動 → 関係 → 誇り

公民館活動の成果を、どう考えるか。

何人、集まったか　　どんな理念を掲げたか

もちろん、どちらも大切

では、その活動によって、

地域の何が変わった？

世代をこえた出会いは？　　新しい挑戦は？　　続いていく関係は？

地域に“ないもの”ばかり探していませんか？

担い手がいない

若者が来ない

新しい企画がない

でも、本当に“ない”のでしょうか

その地域に　誰かの　ちょっとした

あるもの × **「やってみたい」** × **仕掛け**

＝ 地域がおもしろくなる

公民館・社会教育の役割

公民館は、
“何かをしてあげる場所”ではない

地域にあるものと、
誰かの「やってみたい」を
つなぐ場所

担い手を探す前に、「やってみたい」を探す

公民館

公民館的という発想

公民館とは、建物だけで捉えない そこには、関係のつくり方がある

つどう・まなぶ・むすぶを、
人の動きとしてデザインする。

1. 人をあつめる前に、声をかける
2. 教える前に、一緒にやる
3. 企画を与える前に、やりたいを聞く
4. 成果を数える前に、関係を見る
5. 終わった後も、戻れる余白を残す

公民館や社会教育のゴールとは？

資格や役職を持つ人を増やすことが、ゴールじゃない

自分たちで考え、動き出す人を増やす

それが、私の考える公民館や社会教育

1946｜公民館構想の原点

公民館の原点に、若者へのまなざしがあった

「公民館は新しい時代に処すべき
青年の養成に最も関心を持つ機関である。」

出典：寺中作雄『公民館の建設―新しい町村の文化施設』（1946年）

同年の「公民館設置運営の要綱」でも、
青年層と公民館との関わりが重視されていた。

出典：文部次官通牒「公民館の設置運営について」（1946年）

若者と歩む。それは、公民館の原点に立ち返ること

あなたのまちで、
最初に名前を呼びたい若者は
誰ですか？

今日、ひとりに声をかける。



社会教育には、卒業がない

人は異動しても、
関係は地域に残る



地域コミュニティの原点は、楽しい時間を共有すること

若者と歩けば、公民館の未来はもっと面白くなる

ご清聴ありがとうございました

そして、次の挑戦へ

ジブンゴト！

公民館的発想で地域を育てる

※商標登録出願中

正解を探すほど、
地域はおもしろくなくなる

応募ゼロから始まった実践を、
全国で“体験できる仕組み”へ

公民館の実践から生まれた、次の一手



📩 **お問合せ**
njm_games@kominkan.or.jp